

令和7年度の学校評価

ア 自己評価結果等

<p>前年度の 重点目標</p>	<p>(1) スクールミッション及びスクール・ポリシーを基軸に全ての教育活動への反映                  (2) ビジネス社会を意識した規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立                  (3) 「主体的・対話的で深い学び」を授業によって確立し、自ら学ぶ姿勢を育成                  (4) 一人一台タブレットを中心としたICT教育の持続的な推進                  (5) 「全日制単位制キャリアビジネス科」3年目を迎えての魅力と特長の確立                  (6) 「部活動改革」に伴う持続可能な部活動体制の検討と樹立                  (7) 「愛知県公立学校働き方改革ロードマップ」の履行に向けた業務改善</p>		
<p>項目 (担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>総務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式典や管轄業務について、計画的な準備と安全かつ円滑な遂行</li> <li>・PTA役員との連携を図り特色あるPTA活動の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各組織と連絡・調整を図り、共通認識のもとで、式典や管轄業務の遂行が円滑に運営できるようにする。</li> <li>・PTA役員との連携を進め、PTA役員・委員がPTA活動をしやすいようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分掌・各学年と連携・確認しながら、行事を進めることができた。</li> <li>・PTA役員と連携し、役員・委員と協力して、PTA活動が円滑に進むよう取り組んだ。次年度にむけて、持続可能なPTA活動を計画し、実施していきたい。</li> </ul>
<p>教務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中川青和高校での円滑なカリキュラムの運用と課題改善</li> <li>・スクールエンジンの運用方法の確立</li> <li>・観点別評価の定着と評価方法の課題改善と各種書類の見直し</li> <li>・生徒の読書活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年次以降の教育課程や対象生徒に関する事項を準備する。</li> <li>・校務支援システムによる成績処理、指導要録の作成、調査書の作成方法を確立させながら改善を図る。</li> <li>・観点別評価用の成績処理関係の書式の作成と改善。</li> <li>・図書委員会（生徒）による図書館だよりの定期的な発行と生徒の主体的な活動から内容の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科主任会や学年団と調整しながら計画的に4年次以降の準備を進めることができた。3年次以降は生徒の履修・修得状況に応じて科目選択の変更等が必要となるため注意をして次年度準備を続けていきたい。また、再履修では想定外の問題もあり来年度以降の課題となった。</li> <li>・スクールエンジンの更新に対応したマニュアルを作成し、多くの場面で補助することができた。</li> <li>・生徒が主体的となる取組が授業で実施できるように「あいちラーニング推進事業」の重点校として取り組むことができた。また、観点別評価となり先生方の業務は増加しているため、各種書類の改善を図り軽減することができた。</li> <li>・生徒が委員会活動の一環として図書館だよりの一部を主体的に作成できるように働きかけることができた。</li> </ul>
<p>生徒指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣の確立</li> <li>・生徒指導規定全般の検証と見直し</li> <li>・委員会活動の活性化</li> <li>・支援が必要と思われる生徒への他分掌と協力した援助・指導</li> <li>・外国にルーツを持つ生徒に対する異文化理解も含めた指導体制の確立</li> <li>・いじめの早期発見に努める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常習的な遅刻者に対して個に応じた効果的な指導法の検討をする。</li> <li>・今年度から変更される規定・指導に重点を置き、検証と見直しを行う。</li> <li>・「生活委員会」の役割を交通安全・生活安全・災害安全の3つに明確に分け、活動の活性化を図る。</li> <li>・学年、相談部、保健部と情報を共有し、連携した指導の実施。</li> <li>・関係部署と情報を共有するとともに、個別のヒアリング等を実施し、相互理解を深める。</li> <li>・学年・相談部等関係分掌と連携を図り、情報を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度より生徒指導部で入室許可証を発行することにより、遅刻の管理を一元化した。遅刻する生徒がほぼ固定化されており、多くの生徒は声掛けにより改善される部分が多いことがわかった。常習的な生徒の多くが精神的な面での不登校傾向やヤングケアラー等家庭の状況に起因する問題、起立性調節障害等を抱えており、効果的な指導が難しい状態である。</li> <li>・今年度は「自由に伴う自己責任」を意識させることを目的とし、スマートフォンの放課等での使用を許可、原則ノーネクタイ可、ストラップ着用促進を促すための名札導入、アルバイト手続きの簡素化等を行った。いずれも大きな問題やトラブルはなかったが、時間の経過とともに意識が薄れていくため言い続けなければならない状況であり、「自己責任」という面では困難さを感じた。</li> <li>・交通安全指導や地域と連携した防犯キャンペーン、児童虐待防止啓発キャンペーンなどに参加したが、校内的に活発な活動はできなかった。</li> <li>・各学年会により生徒状況の情報を共有し、指導にあたることができた。特に、児相案件や精神的に不安定な生徒に対する指導に関しては、相談部や保健部と情報共有し、連携を取ることができた。</li> <li>・外国にルーツをもつ生徒が、宗教・文化的な理由により、校則に一致しない部分があるという申告が今年度もなかったが、引き続き継続課題としていきたい。</li> <li>・アンケートや担任面談、保健室からの情報等を通じ、学年や相談部と情報共有ができた。</li> </ul>
<p>進路指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々の進路実現に向けた進路指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路選択の充実</li> <li>・基礎学力の向上</li> <li>・求人票のICT化</li> <li>・コミュニケーション能力・マナーの向上</li> <li>・他分掌との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職においては多種多様な業種の多くの求人をいただき、生徒が自分の希望職種を選ぶことができた。進学に関しても、大学、専門等、指定校以外にも多様な入試方法を提示でき、指定校推薦以外の方法も数名の生徒が進学できた。</li> <li>・今年度から、Handyを導入し、求人票のICT化を図ることができた。生徒はタブレットで求人票を閲覧できるようになり便利になったが、機能を使いこなせていない面もあるので今後は今以上にきめ細やかに指導し、有効活用をさせたい。</li> <li>・講話や面談等を通して、コミュニケーションの大切さを教えることができたが、ことば遣いや、場に応じての行動はまだまだできない場面が多く見られた。その場限りになっている面があるので、継続してきちんとさせていきたい。</li> </ul>

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
保健美化部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身ともに健康な生徒の育成</li> <li>・緊急時に備える体制の確立</li> <li>・美化意識の向上及び清掃活動の充実とゴミの減量化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会を随時開催し、各クラスでの問題点や改善点などの情報交換を充実させる。</li> <li>・救急法講習会を充実させ、緊急時に備える(エピペンの使い方含む)。</li> <li>・環境美化意識が高まるような方策を検討する。特に衛生設備を重点に環境整備や美化に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健委員による自発的な活動を促すことができた。</li> <li>・必要に応じて学年や他の分掌との連携を進めていくことができた。</li> <li>・教員及び部活動生徒への救急法講習会を実施することができた。</li> <li>・学年の協力を得ながら、環境美化に継続的に取り組むことができた。</li> </ul>
生徒会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が充実感や達成感を得るような生徒会行事の実施</li> <li>・部活動の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事において生徒会執行部が中心となり、生徒自身が学校行事の運営にあたるよう、各種委員会を中心に組織を構成する。</li> <li>・部活動を改編、精選し、より生徒の積極的参加を促し活性化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予定していたすべての行事を実施することができた。学校祭については、開催時期・方法について今後検討する。</li> <li>・来年度より漫画研究部と美術部を統合する。部登録制度も変更する。</li> </ul>
相談部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いた学校生活を送れるように、必要な支援や精神的サポートを行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・迅速で丁寧な対応を目指す。</li> <li>・心理検査を実施し、思考特性や集団特性の把握をする。</li> <li>・年2回程度精神健康調査を行うことで、各クラスの状況を把握といじめ等の早期発見をする。</li> <li>・学校内外の連携をスムーズに行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室と連携することで、不調のある生徒について、身体面と心理面、生活面において早期把握やSC・SSW等への連携が強化できた。</li> <li>・心理検査により、生徒個人の思考特性及びクラスの集団特性や人間関係の傾向についての分析ができた。</li> <li>・精神健康アンケートから、SCとの面談を勧める生徒を把握し、早期対応に繋げることができた。</li> <li>・今年度よりSSWが配置され、定期的な面談と生活面からの見立てができるようになり、児童相談所や子ども若者総合相談センターだけでなく行政機関との信頼関係も強化された。</li> </ul>
教育情報部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒用タブレット適切な利用促進</li> <li>・ICT活用時の安全意識の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールブックを定着させ、積極的にタブレットの利用を行う。</li> <li>・教室等の環境整備を実施する。</li> <li>・現職研修を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットの積極的利用を職員へ呼び掛けた。</li> <li>・タブレットの破損・亡失予防に向けて定期考査ごとに整備した。</li> <li>・職員会議後の時間を利用して、現職研修を実施した。</li> </ul>
1年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな人間性の育成</li> <li>・基本的生活習慣の確立</li> <li>・基礎学力の定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活をとおして、自立した大人として必要な人間性を高める。</li> <li>・衣食住の生活リズムを整え、時間や約束を守らせる。</li> <li>・朝学習や授業をとおして高校生として必要な基礎学力の定着をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の学校生活を通して、常に声掛けを行い、何をすべきなのかに意識を向けた生活を送ることができるようにした。</li> <li>・学校生活で守るべきルールの確認や、学校へ通う目的意識の再確認を行った。</li> <li>・朝学では、中学校レベルの復習をし、基礎学力の定着を図った。</li> </ul>
2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切に目標を設定する力の育成</li> <li>・目標に向かって努力を継続する力の育成</li> <li>・集団行動を意識し、何をすべきかを自ら考えて行動できる力の育成</li> <li>・相手の立場に立って、考える思いやりの心の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活面、勉強面、資格、部活、進路などの目標を具体的に立てさせる。</li> <li>・定期的に目標への進捗状況を確認させ、高い意識を継続や目標の修正を行わせる。</li> <li>・修学旅行を目標にして、集団行動を意識した学校生活を送らせる。</li> <li>・自分自身の行動や言動によって、相手がどのように感じるかを意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣が乱れている生徒に対して、学年の教員が協力して、改善するように促し、遅刻する生徒の数を徐々に減らすことができた。</li> <li>・頑張りが将来の進路決定や人格形成によい影響をもたらすことを、各場面で伝えた結果、学校生活を頑張ることができる生徒が見られた。</li> <li>・生徒に対して集団での行動を意識するように伝え続けた。修学旅行では多くの生徒が集団行動を意識することができた。</li> <li>・自分の行動を客観視させる指導を行った。その結果、高校生として取るべき行動をすることができる生徒を増やすことができた。</li> </ul>
3年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路目標の実現</li> <li>・社会に通じる人間力の育成</li> <li>・基礎学力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導をとおして自己理解を深め、進路目標の実現に向けて粘り強く最後まで努力させる。</li> <li>・学校内外の授業や活動をとおして社会に求められる人間力を育成する。</li> <li>・朝学習や授業を通して社会人として必要な基礎学力を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとり面談を重ね、進路実現に向けて最後まで生徒と向き合った。</li> <li>・課題研究や様々な授業で、学校外に出向き、社会経験のある人と関わりをもつ機会を作り、知識だけでなく、社会に出たときに必要なコミュニケーション能力を身に付けた。</li> <li>・朝学習では、週の終わりに居残りなどをさせ、最後までやり切る力を身に付けた生徒もいる。</li> </ul>
総合評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいちラーニング推進事業」への取組をとおして、ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを実現する授業に改善することができた。</li> <li>・遅刻指導の方法を変更することにより、多くの生徒に対して一定の効果があった。一方で、一部の常習的な生徒に対する指導については、なお工夫や改善を模索する必要がある。</li> <li>・SC、SSWを活用することにより、外部機関との連携が可能となり、チーム学校として対応することができるようになった。</li> <li>・「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」に対応した部活動の在り方について部活動登録など校内規定の見直しを積極的におこなった。</li> </ul>	

イ 学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施した主な評価項目</p>	<p>(1) 教育活動全体を通して、基本的な生活習慣の確立・基礎学力向上に向けた取組を実施することができたか。  (2) 外部との連携や地域活動を通して、地域に信頼され必要とされる学校づくりを進めることができたか。  (3) 本校グランドデザインをもとに、教科・科目の視点から魅力ある商業教育が実践できるように取り組めたか。  (4) 人権教育並びに情報モラル・いじめ防止等に関する具体的な取組について、確実に行うことができたか。  (5) 定時退校日の有効活用を含め、時間を意識して業務を進める意識改革を推進できたか。</p>
<p>学校関係者評価委員から出された主な意見、要望</p>	<p>(1) 生徒の進路希望が多様化する中で、個に応じた進路指導に苦慮されている状況がよく伝わってきた。今後も丁寧な対応を継続していただきたい。  (2) 生徒指導分掌について、今年度は例年以上に対応が必要な事案が多く、大変なご苦労があったと感じている。生徒に寄り添う姿勢を今後も大切にしてほしい。  (3) 問題への対応にとどまらず、予防的・支援的な生徒指導に取り組まれている点は評価でき、引き続き充実を期待したい。  (4) 全日制単位制キャリアビジネス科としての新たな取組は、生徒の主体的な学びを促す観点からも意義深く、今後も継続的に発展させていただきたい。  (5) 不安定な時期にある生徒への支援や、校内外での情報共有・連携体制は非常に有効であり、引き続き「チームとしての支援」を進めてほしい。  (6) 外国人生徒の増加に伴う日本語支援については対応の難しさも理解しているが、今後も工夫を重ねながら支援体制の充実に努めていただきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の構成及び評価時期</p>	<p>(1) 構成：学校評議員 5名  (企業・大学・区役所・同窓会・PTA 各1名)  (2) 評価時期：3月上旬</p>